



第 1 日

国 語

(9 : 30 ~ 10 : 20)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて7ページあり、問題はーから三まであります。これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第 番
------	-----

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

昇平は傾斜の緩いところで勢いをつけ、だんだんきつくなる登り坂に一番軽いギアで突っ込んでいった。スピードはすぐに落ちたが、それまでには随分と草太に差をつけることができた。ちらりと振り返ると、草太は何メートルも後ろにいる。どんなもんだと思った。自転車のペダルはだんだん重くなってきたけれど、その登り坂の手応えを自分の力のように感じた。

しばらく走り、もう一度後ろを振り返った。余裕のあるところを見せてつけて、草太を悔しがらせてやろうかと思つたのだ。だけど草太は、悔しがってなどいかなかった。昇平と目¹が合った瞬間、楽しげに笑いかけたきたのである。意外だった。驚いた拍子にハンドルまで揺らいでしまった。草太は、ただ坂を登ることを楽しんでる。余裕ぶつたり昇平を軽く見たりしてるわけじゃなく、こうして一緒に走れることを嬉しがっている。(A)勝負だと息巻いていたのは昇平だけだったのかもしれない。——考えてみれば、先に坂を登った方が勝ちだと決めたわけでもないのだ。必死で先を急いでいたことが、なんだか馬鹿^{ばか}みたいに思えてきた。そう思った途端、自分の息が乱れているのに気がついた。体が^①熱い。ペダルを踏む脚には最初ほどの力が入らなくなっている。

まだ、坂道の半分くらいまでしか来てはいなかった。先は長いというのに、脚は既に疲れはじめている。やばいと思つた。大口を叩いて坂に挑んだのに、やっぱり登れませんでしたというわけにはいかないだろう。

このまま途中でばてたりしたら、格好悪くて話にもならない。サドルから腰を上げ、必死にペダルを踏み込んだ。全身の力をふりしぼろうと、体を左右に振って進んだ。草太は勝負じゃないと思つているとしても、昇平には昇平の意地がある。草太に勝つとか負けるとかじゃなく、一度登れると言つたからにはこの坂道を登りきらなければならぬのだ。もう後ろを振り返る a なんかなかった。ただ必死でこいでいくだけだったが、草太の気配は次第に近づいてくるようだ。リズムカルなペダリングの音が、だんだん背中に迫ってくる。草太に追いつかれるのは時間の問題だった。それでもいいと思つた。草太の方が速く登れるのならそれでいい。自分にとって何より大事なのは、足をつかずにこの坂を登りきることなのだ。

やがて草太が昇平に並んだ。²目²が合った時には、昇平の方から笑つてみせた。顎^{あご}を振り、草太に向かって先に行けと促した。喋^{しゃべ}るときらに呼吸が乱れそうで、声を出す気がしなかったのだ。(B)草太も黙^②つて頷^{うなず}いた。サドルから腰を浮かせ、立ちこぎになつて加速していく。差はじりじりと開いていった。草太の両脚は軽快に回り、自転車はまっすぐに坂を登っていく。昇平は既に、まっすぐは走れなかった。立ちこぎするのも辛^{つら}くてサドルから腰を上げることもできない。それでも、足だけは意地でもつかないことに決めていた。坂のつぺんまで、何が何でも辿^{たど}り着くのだ。

前を行く草太は坂の七割ほどに達していた。そのあたりで右に曲がれば昇平の家に向かう道だったが、そっちには目もくれずに走り続けてい

る。一緒にこの坂に挑んだ小学生の頃とは別人みたいな後姿が、遅くペダルを踏んで上へ上へと進んでいく。(C) だけど昇平だって、あの頃にはなかった力を身につけているはずだった。現に今も、ペースを落としている間に脚は少しずつ **b** なってきている。大きく息を吸い込み、サドルから腰を浮かせた。ハンドルの強く握りしめ、自分の体に引きつけるように力をこめた。出せるだけの力を出して立ちこぎし、疲れてきたら座りこぎに戻る。——そのパターンを繰り返して走っていると、やがて草太の **③** 歓声 が聞こえた。何と言ったのかは分からなかった。顔を上げると、草太の姿が目飛び込んできた。草太は坂の **④** 頂上 にいた。登り坂が平らな道に変わるところまで達していた。サドルの上で、草太が大きく腕を突き上げている。ついに登りきった喜びを、体じゅうで表している。(D) 再びサドルから腰を上げ、昇平はペダルを踏みしめた。

昇平がどうにか登りきった後、二人は地面に座り込んで下を眺めた。坂の上から周りを眺めるのはいい気分だった。 **③** 小さい頃から何度となく見てきた景色だけれど、今朝は特別なのだ。登り坂を征服した後で見る景色は、自分自身の力で手に入れたものだった。「登ったなあ。」草太が **⑤** 呟いた。昇平も荒い息で頷いた。「ああ、登った。」 **⑥** 火照った頬を汗がつついた。(竹内 真 「自転車少年記」による。)

- 1 ①～④の漢字の読みを書きなさい。
- 2 **a** にあてはまる最も適切な語を、第二段落までの中から漢字

二字で抜き出して書きなさい。

- 3 **b** にあてはまる適切な表現を書きなさい。

4 次の文は、この文章から抜き出したものです。この文を入れる最も適切なところを、空欄A～Dの中から選び、その記号を書きなさい。

その姿が昇平にも力を与えてくれるようだった。

- 5 **1** 目が合った瞬間と、 **2** 目が合った時では、坂を登ることに対する昇平の気持ちは、どのように変化していますか。「……気持ちは、……気持ちに变化している。」という形式によって、五十五字以内で書きなさい。

6 **3** 小さい頃から何度となく見てきた景色だけれど、今朝は特別なのだとあるが、次の文章は、昇平のこの気持ちについて述べたものです。空欄Iにあてはまる適切な表現を、十五字以内で書きなさい。また、空欄IIにあてはまる最も適切な語句を、あとのA～Eの中から選び、その記号を書きなさい。

昇平は、(I) ことに達成感を覚えた。さらに、その達成感を草太と一緒に感じられたことが (II)。これらのことから昇平は、見慣れた景色を特別なものに感じたのである。

- A 心強かった I 腹立たしかった
 ウ 快かった E 照れ臭かった

二 次の記事を読んで、あとの問いに答えなさい。

友人と語り合っていて、「あれ？ 理屈が逆転している。」とか、「どうも言うことが矛盾している。」と思うことがよくあります。論理が逆さになったり、前提と結論が食い違ったりしているような場合です。そんなとき「パラドックス」という言葉がよく使われます。パラドックスとは、「逆らつて」とか「反対の」という意味の「パラ」と、「定説」とか「真理」という意味の「ドクサ」を組み合わせた言葉で、日本語では逆理、背理、逆説などと訳されています。

パラドックスの原点は、真理や常識に反する言明、矛盾した言葉の使用の方、実際にはあり得ない状況などを提示することにあります。¹それによつて「あれっ。」と思わせ、そこからものごとを深く考えさせるのです。考えていくうちに思いがけない発見がもたらされたり、人生を反省したりする契機となる場合があります。真とも偽とも決められない言明もあつて、論理学の論争となつたこともありました。パラドックスは知的ゲームとして、あるいは現実の矛盾を暴き出すものとして使われてきたのです。

古代ギリシャの哲人たちがパラドックスを^①ナげかけて以来、パラドックスには二五〇〇年の歴史があります。パラドックスの代表とされるゼノンの「アキレスと亀^{かめ}」は、足の速いアキレスが前をノロノロと^②ア^ルく亀を追い抜けないことになつてしまふという推論で、明らかに事実と反しています。

a

、ゼノンの論法をそのまま受け取れば、こ

の推論が正しそうに思えてしまうのです。だから、その論法のどこにかしいところがあるかを考えねばなりません。

さらに、多くの哲学者や宗教家がレトリックとしてパラドックスを大いに活用してきました。「負けるが勝ち」や「無用の用」は、^bの意味を持つ言葉を対比させることでオヤツと思わせ、言葉の意味を深く考えるきっかけを与えてくれます。逆説的（パラドキシカル）な表現であるからこそ、かえつて印象が強く、記憶に刻み込まれるものなのです。

「矛盾」という言葉は、何ものをも突き刺すことができる「矛」と何ものをも跳ね返してしまう「盾」を売る商人が、「ではその矛でその盾を突いたらどうなるか？」と尋ねられて答えに窮したという故事に始まりがあります。この場合は、真とも偽とも答えを下すことができません。私たちは、そのような言明でごまかされることが多くあります。言葉の使い方に敏感になり、その使い方^③の意図を見抜くことの大事さに気づかせてくれるのもパラドックスの効用です。

現代という時代には、原点とは違つた意味のパラドックスが多く生じています。こんなエピソードがあります。今から三〇年以上も前のこと、ある技術者がリチウムを使った小型で長時間保つ画期的な蓄電池を思い^③つきました。その技術者の意図は、リチウム蓄電池が開発できれば省^③シゲン・省エネルギーとなつて電気の無駄な消費が抑えられるというものでした。首尾良く開発に成功して、これまでのロスの多い蓄電池に比べて格段に性能が良く、場所もとらないので重宝されるようになりま

した。その結果、パソコンや電気自動車などに使われ、今やリチウム蓄電池は現代の大量消費時代の花形となっています。

この技術者の本来の目的はエネルギー消費をセツヤクする④ことだったのですが、現実にはエネルギー消費の加速を促すことになってしまいました。彼は、「目的と結果が逆になってしまった。」と述懐したかも知れません。

この場合は、はじめに意図したことと、もたらされた結果が全く逆になったという意味でパラドックスと言えるでしょう。これと同じで、人間の幸福を追求して²さまざまな技術開発が行われてきましたが、逆にそれが大きな厄災を招いたことも多く起こっています。このような現代のパラドックスは、ものごとは全体を見て判断しなければならないことを強く示唆しているようです。

このようにパラドックスはさまざまな意味に使われてきましたが、パラドックスを通じて論理や常識を疑い、新しい目で社会や人生を見直す契機とするのも現代の知恵かもしれません。

(池内 了 「パラドックスの悪魔」による。)

(注)ゼノンⅡ 古代ギリシャの哲人。

レトリックⅡ 言葉や文章の表現効果を高めるための技術。

1 ①④ のカタカナにあたる漢字を書きなさい。

2 a にあてはまる最も適切な語を、次のア～エの中から選び、

その記号を書きなさい。

ア また イ しかし ウ つまり エ なぜなら

3 b にあてはまる最も適切な語を、文章中から漢字二字で抜き出して書きなさい。

4 ¹それは、どのようなことを指していますか。文章中から最も適切な部分を抜き出し、そのはじめの五字と終わりの五字を書きなさい。

5 ²さまざまな技術開発とあるが、筆者は、それによって起こっていることについて、どのような点がパラドックスだと述べていますか。四十五字以内で書きなさい。

6 次の表は、この文章の内容からⅠ～Ⅳの四つのまとまりに分け、それぞれの要点をまとめたものです。この表のⅡにあたる段落をすべて書きなさい。また、空欄cにあてはまるⅣの要点を、四十字以内で書きなさい。

まとまり	要点
I	逆理、背理、逆説と訳されるパラドックスは、ものごとを深く考えさせるのに役立つ。
II	長い歴史の中で、パラドックスは大いに活用され、さまざまな効用をもたらしてきた。
III	現代では、これまでとは違った意味と効用を持つパラドックスが生じている。
IV	c

三 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

宋朝そうちょう夫婦餅ふうふもちをうりて生業すまはなとする者、あるとき、道の傍かたはらに銀の軟挺なぐて、
宋の国そうのくにに 職業しごく 銀の貨幣ぎんのかへい

六つ袋に入れて落としけるを見付けけるに、もとより正直なる者どもに

て、何とぞ返さばやと普あまねく触れけるに、その主といふ者来たりければ、

返したい 広く知らせた

これを渡わたしけるに、「三つをば御辺ごへんに奉たてまつらん。」といひけるが、惜おぼ

あなたに差し上げよう

しくや成りけん、「この銀七つありしに、六つあるこそ不審ふさんに候へ。」
しくなったのだろうか ございます

と、怪しみけるを、



とり候ふ心に候へば、何しにかくは返し
盗む気持ぬすむきもちでございましたら なせこのようにお返しする

申すべき。」といへども、兎角とかくして論果ろんこてず、所の太守へ訴へける。太
だるうか、いやするはずがない いろいろ言つて その土地の長官

守見付けたる者をば正直と見ながら、別の処ところに妻を召し、事の仔細しさいを

問はるるに、夫の詞ことばに違たがはず。よつて奉行、「見付けたる者それを

引き込めずして元の主に返さんとするは正直なり。今主といふ者七つあ

るを落としたるなればこの軟挺には非あざりけり。これをば夫婦の者にた
与

ぶべし。かの主は七つあらんを求めて取るべし。」とぞ判はかかれける。
える 銀の貨幣が七つ入った袋

〔梅園叢書〕による。

1 にあてはまる適切な語を、次のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

ア 一つ イ 三つ ウ 五つ エ 七つ

2 渡しけるの主語は何ですか。次のア～エの中から適切なものを選び、その記号を書きなさい。

ア 夫婦 イ 餅 ウ 銀の軟挺 エ 主といふ者

3 惜しくや成りけんとあるが、「主といふ者」はどうすることが惜しくなったと考えられますか。現代の言葉で、二十字以内で書きなさい。

4 問はるるのひらがなの部分を、現代かなづかいで書きなさい。

5 次の図は、この文章における奉行の判断について整理したものです。空欄Ⅰ・Ⅱにあてはまる適切な表現を、空欄Ⅰは十五字以内、空欄Ⅱは二十五字以内で、それぞれ現代の言葉で書きなさい。

